

ホーム名：グループホーム今城の丘					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、理念を把握をしている。	法人理念「礼儀・誠実・親切を基本としきめ細やかで、思いやりのある介護を行なう。地域に開かれた施設及びサービスを目指し、社会に貢献します」を事業所の理念としている。ミーティングや研修時に再認識し、自覚に努めている。	法人理念を介護全体としての心得として、事業所の理念に併用しているとの事であるが、一番に目指しているもの・大切にしたい事などを簡潔に心に残る言葉で表した、事業所独自の理念を求めたい。又、理念は入居者、訪問者、職員にも目に付き易い場所に提示されたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体の行事に地域の方にも参加して頂き、交流を図っている。	事業所の開設が新しいこともあり、自治会にはまだ加入していない。法人の夏祭りや餅つき大会などの催しには、地域の方々(婦人会など)にも手伝って頂いている。地元の職員が多い事から、地域との関係作りは出来ている。	ボランティアによる月1回のリズム体操などがあり、地域に開かれた交流もなされている。今後は、1階の多目的室を利用して、認知症などの講演会や介護教室など地域の方々の為に、高齢者の専門情報の発信を計画されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域住民からの相談や意見等応えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度運営推進会議を開催し、入居者の家族、民生委員、市役所、地域包括支援センター職員などの参加して頂き、ホームから報告、や今後の予定を報告しホームでの問題点を話し合い、アドバイスを頂いています。	市職員・地域包括支援センター職員・地元民生委員・家族等の参加を得、2ヵ月に1度開催されている。議題は、前回の議題について・現状報告・今後の予定・意見交換等である。活発に意見交換・質疑応答がなされている。	市職員・包括職員には休日の開催にも拘わらず出席いただき、有難い事である。今後は、家族の参加をより得られるよう、呼びかけにも工夫をされたい。議事録は、会議に出席出来なかった家族にもよく伝わる書き方となっている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険課、地域包括支援センター等の担当者と連携を大切にしています。	日頃からの連絡・相談等に加え、運営推進会議には毎回参加をいただいている。質問にも具体的に答えて下さっている。	市も熱心に関わりを持って下さるとの事で、心強い事である。事業所に直接足を運び、介護現場を目にして頂く事は必要である。今後も連携を大切にして、協力関係を築いていって欲しい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するように周知徹底し、居室にはカギをかけていない。日中は玄関に施錠をせず、外出願望の強い入居者には職員が付き添いを行っている。年間行事計画にて、4月に研修の予定を実施している。	研修や会議を通じ、身体拘束をしないケアを実践している。エレベータは安全対策の為、特殊操作による開閉となっている。過去に於いては、夜間ベッドから落ちる入居者や湿疹によりつなぎ服を検討した例もあったが、対策や職員のコまめな見守りにより回避された。	外出願望の強い入居者にも温かい声かけや散歩で近隣を回ってくる対応をし、心落ち着く支援が出来ている。今後も具体的な行為等について話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいってほしい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、職員同士注意しあっている。年間行事計画にて、6月に研修の実施を予定しています。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在まで利用者に制度利用している方はいない。必要に応じて、随時研修を行います。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、必要事項を読み上げて説明をしている。不明点等あれば常に対応している。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者は日々の生活の中で、家族等には、面会等の際に意見や要望を受け入れることもある。運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、家族が何でも言えるような心がけている。</p>	<p>「意見箱」がエレベータ入り口の壁に用紙と共に設置されているが、今の所投書は無い。直接口頭によるか、運営推進会議時に要望や提案として出されている。普段から何でも言って貰えるような雰囲気作りで心掛けている。</p>	<p>食事時の席替えや、来訪者があった時の連絡等、家族からの要望に応え検討・対応している。家族には運営推進会議への参加を呼びかけ、より多くの意見や要望を集めて、家族と協力しながら入居者の暮らし易い質の高い事業所を作りあげていきたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日々の申し送り時や、職員会議において意見交換を行っている。</p>	<p>職員からの意見・提案により、レクリエーションの充実目的で100~500円(暫定額)の費用を家族の了承の下、徴収する事となった。又、介護プランに職員の意見を反映させている。第3月曜日の全職員による定例会議で、意見交換等行なっている。</p>	<p>管理者は日頃から職員に気軽に話しかけ、意思疎通を図る努力をされている。職員から進んで意見や提案が出され、またそれらを反映する事でより質の高い事業所となる。今後も引き続き努力されたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人員基準を満たすように話し合い、勤務調整をおこなっている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月職員研修を行い、外部の研修も積極的に組み込み、少しでも研修を受ける機会を設けています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>外部の研修に参加する職員が、偏らないようにしながら、参加を促している。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に利用する本人と面談を行い、入居前のケアマネジャーや主治医、ソーシャルワーカー等から、意見、助言、要望を聞いている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に家族等と面談を行い、入居前のケアマネやソーシャルワーカーから、意見、情報、要望を聞いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族様との面談を通じて、不安や問題点を知り、必要な支援を見極め対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者と職員が同じ立場で自分ではできないことはして頂き、必要とされることは支援しています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との連絡を密にとり、喫茶や餅つき大会等の行事に家族の参加を募り、通院は家族と行って頂き、その際、情報は共有できるように情報提供をしている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や知人の面会はありませんが、家族様との外出で馴染みの場所に出かける機会を設けている。職員と近所の神社や公園に出かける際は、家族の要望により、時間帯や日程の調整は行って実行している。</p>	<p>家族と共に墓参り等されている。初詣などに出掛けるが、知人に遭った時や声を掛けられた時に混乱するのではないか、という家族の悩みや心配もある。</p>	<p>総合施設長は近隣に出かけ馴染みの人に会っても混乱することがない対応を職員には指導している。家族は付き添っている時に混乱しないか心配しておられる。家族にも混乱時、どのように対応したら良いか、スタッフから助言していただくことを期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日中は入居者同士はフロアーで過ごされ、話をしたり、良い関係作りが出来ていると思います。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所された家族からの手紙を職員で回覧したりしている。折をみて、担当ケアマネや家族に現状を聞いている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の思いに気づき、その人らしい生活が送れる様支援しています。</p>	<p>ミーティングの場で、気付いた事を発表してもらっている。また、家族との対応で聞いた事などと合わせてケアマネジャーにまとめてもらい、全職員が共有するようにしている。</p>	<p>思いを汲み取ることが介護現場で一番難しく且つ望まれることである。現在の思いだけでなく、今後どの様な暮らし方をしたいかなど意向の把握にも努められたい。その為にも全職員が研鑽を積んでいって欲しい。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>生活歴を把握しその方にあった生活環境を作っていくよう心がけています。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>気づきを大切にし、現状の把握に努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者と関わりをもち、介護職との情報を共有し、家族の意見を聞いて介護計画の作成をしている。</p>	<p>介護計画の見直し期間は、短期6ヶ月・長期1年としている。ホームから「介護情報提供表」を医師に出し、診察した後医師からもその返事として報告書が来る。家族の要望等も取り入れ介護計画を作成している。</p>	<p>今後も、医師・看護師・家族・職員等関係者を交えて、入居者に即した介護計画を作成して頂きたい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の1日の様子や対応を記録して共通理解している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>年2回、消防署の協力を得て、訓練を実施し、地域ボランティアの協力で、フルーツ演奏や、リズム体操を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者が生活していくうえで自分ができることはやって頂き、地域ボランティアの協力を得て、リズム体操や音楽鑑賞等、楽しむことができるよう支援しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前にはかかりつけ医の希望を聞いている。提携の医療機関をかかりつけ医にしている入居者には毎週1回の往診があり利用者の健康管理・治療をして頂いている。外部のかかりつけ医には、家族と通院している。</p>	<p>提携先以外の医院の受診時は「介護情報提供表」を提出する。医師からも診察結果報告が文書で届く。急変時のことも想定し提携先医療機関の毎週1回の往診は全員受けている。</p>	<p>医師の往診が形式的にならないようホームからの「介護情報提供表」を活用している。提携医療機関の往診は週1回12時～1時が往診時間になる。食事時間と重なるので1時以後の往診にお願いするなど検討されたい。</p>

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>小さな事もみのがさず併設の小規模の看護師に伝え、相談し適切な助言を受け、介護に活かしている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>受診の度に、介護情報提供書を作成し、医療機関、家族との連絡をとり、情報交換をしています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>状態変化時には家族とも相談をし医療機関とも連絡をとり対応している。</p>	<p>重度化したときは家族にグループホーム内での医療行為は出来ないことを説明している。現在重度化したときの事業所の方針を作成中で、その内容は家族にも説明共有する方向で準備中である。</p>	<p>開設後1年半であり現在重度になっている入居者は未だいない。高齢者は徐々にでは有るが重度化する事は避けられない。今から事業所として出来る事、出来ないことを検討して事業所の方針を作成し家族にも説明されたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師により、研修をおこない、緊急時の対応について訓練を行っています。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回に昼間、夜間を想定して避難訓練を行っている。消防員よりアドバイスをいただいている。マニュアルによる研修も行っている。</p>	<p>訓練は同法人ケアハウス、2階の小規模多機能との共同で行った。火災時の避難場所、通報装置を押した後の対応の仕方など具体的基本的なことを消防署から指導を受けた。壁・カーテン・毛布などは防災素材であり、スプリンクラーは設置済みである。</p>	<p>広域避難場所は大王杜で歩いて行ける距離である。備蓄品については目下内部で検討中で整備する予定で進めている。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者に応じた言葉遣いやプライドに配慮しながら対応ができるよう心がけている。</p>	<p>新人研修で言葉使いは敬語を使うように指導しており、法人の方針である。トイレ誘導などは一番配慮する場面であり全職員に常日頃指導している。</p>	<p>プライバシーの確保、人格の尊重は高齢者がいやな思い、恥ずかしい気持ちにならない対応が出来るかどうかであると言える。全職員は笑顔を忘れることなく更なる研鑽を期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者の思いに傾聴し、支援を心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>趣味や、やりたい事を事前に聞き、少しでも希望にそった支援をしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>一部の方は衣類を選んで頂いてますが、他の方は職員が用意しています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>手伝いが出来る方には、テーブル拭き、食器拭きなどしていただいています。食事前の口腔体操を行い、食事を食べる意識をもって頂いています。</p>	<p>食事は同法人ケアハウスの厨房で委託業者が作ったものをグループホームも利用している。ケアハウスの管理栄養士が献立作り、特別食対応の指示をしている。給食委員会があり食事について検討するシステムがある。</p>	<p>食事は高齢者にとり数少ない楽しみの一つである。食べる楽しみは食事内容はもとより、どんな雰囲気の中で食べるかということも重要である。そのことから家庭的雰囲気作り、皆で作るおやつなど変化のある食の楽しみを期待する。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>個々の状態に合わせ、食べる量は調整しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケア。希望者には、週1回の歯科往診があり、歯の健康管理・治療を行って頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の状態に応じて支援している。</p>	<p>現在は殆どの入居者は自立排泄が出来ている。誘導と排泄チェックの必要な入居者もおられる。</p>	<p>高齢になると、本人の大儀さと、気兼ねなどで自らオムツを望む方もおられるとのことである。個々の症状・要望に添いつつも、まず自立排泄の大切さを入居者と介護者との意識の共有を継続されたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防として日々の運動や体操をおこなっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は決めているため個々にそった支援は現在は難しいです。入浴の湯船は毎回入れ替え、掃除をしている。季節に応じた柚子風呂をしています。</p>	<p>入浴は原則週2回を目安に支援しているが、事情によりその都度の入浴もできる。時間は午前9時30分から11時30分を宛てている。湯は1人づつ換えている。</p>	<p>高齢者になると入浴を嫌がる人も出てくるとのことではあるが、心身ともにリラックス出来る入浴が楽しみになるよう更なる支援の継続をお願いする。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の状態に合わせ、対応しています。</p>		

47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の情報を理解し服薬支援しています。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の生活の中で役割を決め張り合いのある過ごし方をしています。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の希望で外出することは難しく、家族の協力で外出する方はいます。外出願望の強い入居者には職員が付き添い外出している。天気の良い日には、散歩に出かけています。</p>	<p>週1回全員で外出する時間を作っている。向かいのケアハウスに行って屋上からの眺めを楽しんで帰ってくるというコースである。外出したいとの要望がある時はその都度職員と一緒に散歩をする。</p>	<p>外出は季節の移ろいを感じ足腰を鍛えることになる。また外出することで気分もよそ行きになることもある。出来るだけ散歩・買い物などの予定を組み込んだ計画を考えて欲しい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持できる方は現在いません。施設での管理はできていません。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば対応していきます。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者と共に季節の作品を作り、壁などに掲示して居心地の良い空間を作っています。季節を感じる壁掛けや、行事で楽しかった思い出の写真が飾られています。</p>	<p>廊下は広く車椅子が2台並んで通れる幅になっている。壁には写真や工作作品が飾ってある。リビングは2面が大ガラス戸になって見晴らしはいい。入居者が共同で作った日めくりが2箇所に置かれていた。</p>	<p>リビングは狭くはないが、テーブルと椅子で一杯になっていた。配置に工夫をされ、一人になりたい居場所作りとしてソファなどの設置を視野にいれて検討をお願いする。入居者の意見も聞いて、職員皆で考えて欲しい。リビングにカレンダーを掲示されたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者自身思うように移動したり、居室に入ること、自分の時間を過ごしていると思います。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>必要なものなど、家族へ相談し居心地の良い環境を作り出している。</p>	<p>居室はベッド・布団・机つきチェスト・テレビはホームで揃えて全居室同じである（リース）。クローゼットは1シーズン分が収納できる大きさであり、衣替えは家族がする。仏壇を持ち込んでいる入居者がおられた。時計・カレンダーはない部屋が多い。</p>	<p>ホームで取り揃えた同じ調度品（リース）であり同じ設えの居室が多い。毎日の生活空間としての居室が温か味ある部屋となっているか、周辺症状の改善を図りながら、生活感のある居室作りを家族にも相談し、管理者はじめ全職員で考えていただきたい。生活感を出し、日時認識のため時計・カレンダーを全居室に配置されたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個室の表札、トイレの表示等、目の届く範囲に目立つように表示し、利用者が自分で行き来できるようにしています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない